

きょうと福祉倶楽部だより

7月号

ちょっとヘンなばばちゃんのこと 最終回

私の母（通称 ばばちゃん）は、80歳 3年前は要支援 現在要介護2

乳がんの手術は無事に終わり次にやってくるのは認知症問題。
認知症専門医のいる病院で脳の画像を前に軽度の認知症と診断されたばばちゃん。

何かのきっかけで「パン」のワードが残るとパンばかり買ってくる

「パンはあるからいらないよ」って言っても「あるからいらない」は忘れて、またパンを買ってくる。パンと言えば、半生の冷凍ロールパンが12個入り3セット、リビングにあってカビていた。

焼くだけで食べられる焼き肉の冷凍肉を生協で6人前とか注文している。

焼くだけだから楽だし、みんなが来たときに焼けばいい…と、やさしいばばちゃんだけれど、そんなこんなで冷凍庫パンパン状態。

女性の認知症の初期症状は冷蔵庫をチェックするといいかもしれない。次に賞味期限とか食べられるかどうかの判断がつかなくなる。ばばちゃんが認知症になってから実家に帰ると、いつ解凍されたかわからない鶏肉や豚肉。何ていう食べ物か何かかもわからない得体の知れない塊や、腐っているであろうものを大量に捨てる。生協での買い物が楽しみのようで、注文用紙とにらめっこ。後で注文用紙を見ると、好きなものをたくさん注文している。しかも、いつも複数。ばばちゃんに聞くと、「みんなきた時に…」と…ありがたいのだけれど…注文用紙での発注はやめて、ネットで娘たちが注文することにした。ばばちゃんの発注した注文書の食べ物は届かないけど、届くときには忘れていたので、楽しみな注文用紙への記入は続けてもらっている。

…「うっかり」じゃない。年相応と認知症って全然違う。本当に記憶が無い。あまり話さなくなったので、鬱も疑った。こちらの言っていることが理解できているのかいないのかいつも適当な返事をしていた。相槌するから、こっちは分かっていると思っていた。でもばばちゃんは話について行けず、話に合わせて適当に返事していただけだった。

今はわかるけど、当時はわからなかった。遠距離でたまにしか会わないと気づかないことが多い。年だしな…とひとくくりにしていた。もっと日頃から「あれ？」って言うことに気づいていたら…これにいかに早く気づくかが大切だと思った。日々の自分の生活にも追われその「あれ？」という気づきを見逃していたと思う。

毎日のヘルパー訪問、週に一回の訪問看護、週二回のデイケア、認知症専門医の先生にお世話になり、はや2年弱になるのかな…低空飛行ながらゆっくりとばばちゃんの生活も落ち着いてきている。インフルエンザに罹患してり、体調が悪かったりしても毎日誰かが、ばばちゃんの家を訪ねてくれていて、すぐに異変をさっちしてくれるようになり、少し家族の気持ちも楽になった。認知症のパッチのお薬も効いているのか少し、性格も明るく戻り以前の良くおしゃべりするばばちゃんに戻っているような気がする。

クリスマスパーティも、バースデイパーティも、すぐに忘れてしまうけど、その都度楽しんでくれたらそれでいい。

これからも思い出をたくさん作ろう。今年の夏も花火を見に行こう。

認知症という病気は長いお別れといわれている。やさしくてみんなに愛されているばばちゃんは、みんながゆっくりお別れできるように認知症になったのかな…と思います

ヘルパーN

介護はまだ続くけど おわり